



小学校だより Vol.138

椋小の英語教育

学習指導要領の改訂に伴い平成三十二年度より小学校五、六年生に年間七十二時間の外国語科が新設されますが、ご存じのように椋小では、従来より一年生からの六年間で六百四十コマもの英語教育を毎日実施しています。今回は、本校の先進的な英語教育の取り組みについてお伝えします。

〈毎日英語の取り組み〉

五人のネイティブ常勤講師によるオールイングリッシュの授業を、一、四年生は毎日二十分、五、六年生では、週四回二十分と週一回四十五分実施しています。一年生のうちから「話す・聞く・読む・書く」の四つの技能を身につけるため、子どもの活動を大切にしています。そこで一学級を二つに分け、少人数学習として、一人一人の活動量を増やすようにしています。授業は、単に英語の技術を習得するだけにとどまらず、国際感覚や、「クリティカル・シンキング」の考え方を身につけます。また、英語を用いて他の教科等を学ぶCLIL(Content and Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習)という教育方法も取り入れています。四・六年生の学年末には、学習の成果を測るために「ケンブリッジヤングラーナーズ英語検定」を実施します。四年生では中学校初級程度の英語力が七十二%、中学校中級程度は二

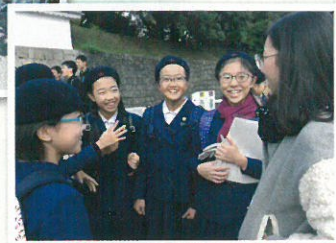
十七%となっており、六年生で中学初級程度は四十二%、中学中級程度が五十二%、中学卒業程度が六%になっています。(昨年度の実施結果)



〈英語を活用する取り組み〉

英語は授業だけで使うことができはよいというものではありません。日常の中で使えてこそ意味があります。そこで、本校では、授業以外の場で英語を活用する取り組みを積極的に行っています。

常勤であることを生かしてネイティブ講師が給食に参加し、食事をしながら会話を楽しんだり、遠足・運動会などでは、一緒に行事に取り組んだりします。また、三年生は「リトルワールド」で英語を使った「一日遠足」、四年生は、「郡上の宿泊行事でネイティブ講師に英語で街



案内」、五年生は「大阪イングリッシュコミュニティでイングリッシュキャンプ」、六年生は「修学旅行で外国人留学生と京都市内散策」と、校外学習で英語を活用する機会を設けています。
このように英語を活用する取り組みを創意工夫して行うことにより、実際の場で使える英語力を身につけます。

校長 森和久

特集 校歌 P2、P3

委員会・部活動報告 P4 / 学期の記事 P5

学年トピックス P6~P17

PTA P18、P19 / 学期の出来事 P20

CONTENTS